

第7章 平成9年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 カーブミラー新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-11, N-21

調査期間 平成9年8月19日

調査面積 約0.8㎡

調査結果 工事は、交通安全上の危険が多いM-11区とN-21区にカーブミラーを設置するために、支柱の基礎部分について、直径約70cmの円形の範囲内を現地表から約90cm掘り下げるものである。M-11区は吉田寮への入口と農道との交差点、N-21区は樫野寮の入口部分にあたる。

立会調査の結果、M-11区については、現地表下約23cmで、橙色砂礫土の地山を確認した。調査地近辺では崖面が露出しており、統合移転時に大規模な削平を受けたと考えられる。N-21区については、現地表下約25cmまでがマサ土の表土で、以下は造成土の範囲内にとどまった。

(田畑)



Fig.69 M-11区調査区位置図



Fig.70 N-21区調査区位置図

2 基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 J・K-21, K・L-22, L-23

調査期間 平成9年8月27日、9月1・8・9日

調査面積 約23.5㎡

調査結果 吉田地区基幹整備の一環として、毎年計画的に構内の外灯が新設されてきている。本年度の整備は、平成8年度に試掘調査を実施した、南門から遺跡保存地区にかけての外灯整備に続くもので、遺跡保存地区から人文学部までの道路、ハンドボール場の周囲、南門門柱脇に合計6基の外灯が新設された。B～D・F～H地点は新設される外灯の基礎部分、平面形約90cm×90cmについて6ヶ所、A・E地点は電気配線中継のために新設されるハンドホール部分、平面形約60cm×60cmについて2ヶ所、I地点は遺跡保存地区の南東縁を通る管路部分、1～4地点はハンドボール場内の管路部分、平面形70cm×70cmについて4ヶ所の立会調査を行った。

A～E地点は、遺跡保存地区から人文学部へ至る道路に沿って新設された外灯ライン上の調査地点である。A地点は、現地地表下約30cmまでが表土、約30～50cmまでが水田耕土、約50～70cmまでが水田床土、約70～110cmと以下が茶褐色土の地山となる。B地点は、現地地表下20cmまでが表土、約20～40cmまでが白色砂とバラスの工事埋土、約40～60cmが水田床土、約60cm以下が茶褐色土の地山となる。C地点は、現地地表下約35cmまでが表土、約35～50cmまでが整地土、約50～70cmが暗灰色土の水田耕土、約70～90cmが茶褐色土の水田床土、約90～120cmが黒褐色土の河川堆積土、約120～130cmと以下が暗灰色砂礫の河川堆積



Fig.71 調査区位置図

土となる。黒褐色土からは土器片が出土した。D地点は、現地表下約17cmまでが表土、約17cm以下が青灰色シルトの地山となる。ここでは、一部で地山上面に厚さ約15cmの黒褐色土からなる遺構埋土を確認した。調査範囲が狭いため遺構の性格は不明である。D地点付近の管路でも、暗灰色土による埋土の直径約25cmの柱穴を検出した。E地点は、現地表下約30cmまでが統合移転時造成土、約30～50cmが水田耕土、約50～80cmが水田床土、約80～110cmと以下が黄青灰色シルトの地山となる。

F・G地点は、それぞれハンドボール場の東側と南側に新設された外灯基礎部分の調査地点である。F地点は、現地表下約35cmまでが表土、約35～70cmまでが造成土、約70～100cmまでが水田耕土、約100～110cmまでが水田床土、約110～130cmと以下が暗青灰色シルトの地山となる。G地点は、現地表下40cmまでが表土、約40～90cmまでが造成土、約90～140cmと以下が暗灰色粘質砂の地山となる。

H地点は、南門の北側に新設された外灯基礎部分の調査地点で、現地表下約40cmまでが表土、約40～90cmまでが整地土、約90～120cmまでが暗灰茶色砂礫の統合移転時造成土、約120～150cmまでが暗灰色砂礫の河川堆積土、約150cmと以下が茶褐色礫の河川堆積土となる。暗褐色砂礫の河川堆積土からは少量の土器片が出土した。平成6年度実施のグランド屋外照明施設新設に伴う発掘調査のDトレンチ及び平成8年度実施の基幹環境整備（外灯新設）に伴う発掘調査のB調査区南西端でも粗い砂礫を埋土とする河川が検出されている。今回調査のH地点で検出した河川堆積土もこれらと一連のものになると考えられる。

I地点は、グランド屋外照明塔から遺跡保存地区の南東縁を通り、道路を横断してA地点のハンドホールへと布設される管路部分の調査である。遺跡保存地区の南東縁の幅30～40cm、深さ20～30cm、全長約50mの管路について掘削開始から立ち会った。土層は、現地表下約20～30cmの表土直下で黒褐色の包含層及び黄灰色シルトの地山を検出した。

ハンドボール場内の4地点の土層の状況はほぼ同様で、現地表下約10cmまでがマサ土のグランド表土、約10～20cmがグランド整地土、約20～70cmと以下が造成土となる。

今回の調査では、吉田構内南側はほぼ中央部に位置する野球場を囲むようにして、広範囲に地下の土層の状況を確認することができた。今回調査した地点は、大学建物から離れた位置にあり、建物新営工事による攪乱の影響が少ないことは予想できたが、統合移転時造成に伴う削平の影響もほとんど受けていないことが明らかとなった。一部の調査地点で、遺構・遺物を確認していることから、今後の施設整備に際しては埋蔵文化財の保護に十分留意することが必要である。 (村田)

3 共通教育棟エレベーター新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 K-16

調査期間 平成9年10月2・8日

調査面積 約42㎡



Fig.72 調査区位置図

調査結果 掘削工事は共通教育棟に接して、東西約7m×南北約6m、深さ約1.8mの範囲で行われた。掘削範囲の南側の部分では、現在は使用されていない污水浄化槽が埋存していた。また、これに伴う配管等の埋設工事や、建物本体工事による掘削が広範囲で行われており、調査範囲は攪乱が激しく埋蔵文化財の確認が期待できる土層は消滅していた。(村田)

4 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 E-14

調査期間 平成9年11月21・26日、12月15日

調査面積 約48㎡

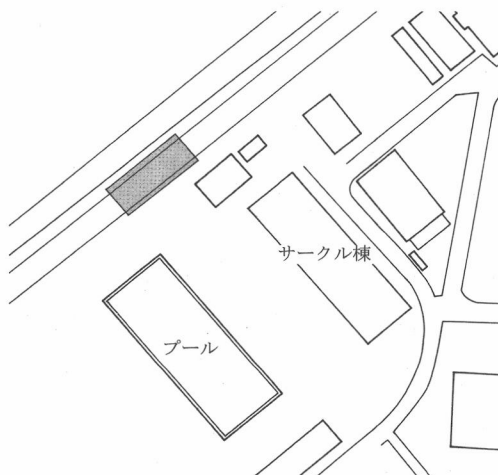


Fig.73 調査区位置図

調査結果 この工事は昭和62年度から行われてきている。今年度は長さ24m分の工事が実施され、大学構内の樹木移植と護岸改修工事に立会調査を行った。土層は、現地表下約1.3mまでが統合移転時造成土、約1.3~2.0mが水田耕土か床土、以下は地山で約2.0~2.3mが黒褐色土、約2.3~3.4mが暗黄灰色粘質土、約3.4~4.0mが黄灰色粘質土、約5.0~6.0mと以下は暗灰色礫からなる基底河床礫となる。遺構・遺物は検出できなかった。(村田)

5 本部2号館西側バリカー新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-13

調査期間 平成10年3月12日

調査面積 約0.5㎡

調査結果 工事は本部2号館の西側に車止めのバリカーを設置するため、基礎部分の2ヶ所について、50cm×50cmの範囲で現地地表から約30cm掘り下げるものである。立会調査の結果、掘削は造成土の範囲内にとどまった。

(田畑)



Fig.74 調査区位置図

6 教育学部附属養護学校時計塔新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 D-21

調査期間 平成10年3月24日

調査面積 約1.4㎡

調査結果 工事は時計塔の設置に伴い、花壇敷地のA・B地点の2ヶ所について、60cm×120cmの範囲で現地地表から約50cm掘り下げるものである。その結果、両地点とも、現地地表下約45cmで遺物包含層と考えられる黒褐色粘質土を確認した。

この層の厚さは2～8cmと薄く、その直下が緑灰色シルトの地山であった。遺物包含層からは、磨滅した土師器片が出土した。

(田畑)

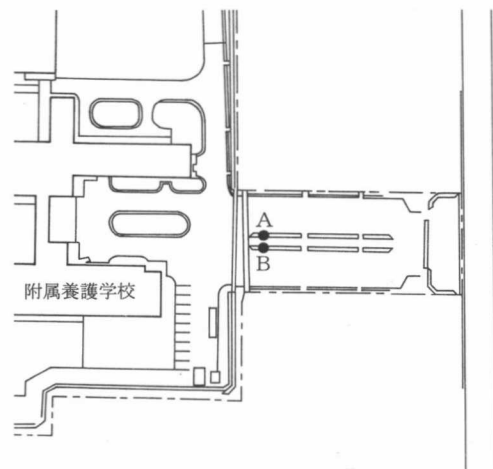


Fig.75 調査区位置図

7 基幹環境整備（教育学部附属養護学校排水管取替）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 C・D-21

調査期間 平成10年4月6日

調査面積 約17m²

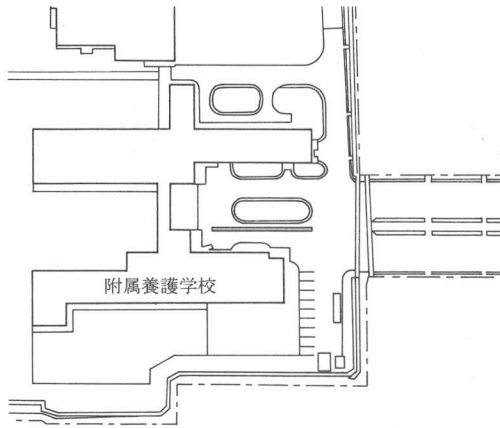


Fig.76 調査区位置図

調査結果 工事は教育学部附属養護学校の排水管の取り替えを行うものである。工事による掘削は幅約1m×長さ約17mで、深さは現地表から約80cmであった。調査区の大部分では既設管の埋土の範囲内であったが、一部の地点で、現地表下約65cmで厚さ約15cmの黒褐色シルト、その下に厚さ約10cmの灰色砂を確認した。河川の埋土と考えられる。遺物は出土しなかった。（田畑）

8 基幹環境整備（焼却場裏表土すきとり）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-16

調査期間 平成10年4月6日

調査面積 約40m²



Fig.77 調査区位置図

調査結果 工事はボイラー室の北側にゴミ置場を設置するために、設置場所の整地を行うものである。調査地近辺では、河川が検出されているため¹⁾、状況確認のため立会調査を行った。しかし、工事による掘削は表土層内にとどまった。（田畑）

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「基幹環境整備（ボイラー室配電盤設置）工事に伴う立会調査」『山口大学構内遺跡調査研究年報 XIV』、2000年）